

## 環境教育（1-G-9-1～1-G-10-2）

本セッションでは、水環境分野での環境教育に関する6件の発表が行われた。50人程度の参加者を得た。

1-G-9-1, 1-G-9-2, 1-G-10-1 は、印旛沼を対象にした環境教育の実践とその効果についての報告であった。小川によれば、千葉県が策定した「印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画」に従い、恵み豊かな沼として再生するための順応的な取組“みためし（見試し）行動”の一環として平成17年度から環境学習を進めている。小学校における実践では、参加体験型のプログラムにおいて児童の多くが熱心であった。その工夫としてジグソーメソッドが有効であった。石井は、水域の汚濁とその浄化作用について楽しく学べる「川の汚濁浄化プロセスゲーム」を考案した。生態系（水辺）に関わるカードゲームなどは市販もされているが、水質汚濁・浄化を扱ったものは初めてであろう。さらに、中村は、住民と行政が連携することで生活雑排水対策の実践が水質改善にどの程度寄与できるか、流域内の小規模団地（34世帯）を対象に実証した。実践状況を自己評価できるようにチェックシートを配布すると共に、座談会を複数回開くなどして啓発活動を行った。先行研究と同様、SSおよびCODの負荷削減効果が高く、「米のとき汁を流さない」等の啓発効果が現れた。また、今回の活動を通して、普段接触がない地域において、コミュニティができたことが大きな成果であったとした。

1-G-9-3 では、大学内でホタルを育てる活動を通じた環境教育の試みが報告された。環境教育としての効果の検証は今後の課題である。

1-G-9-4 は、水環境保全・展示施設利用による意識啓発効果の定量化を試みたものである。施設訪問者の下水道に関する知識が高くなっており、その知識を元にした環境配慮行動の実行率を上げていくための手法の開発に期待したい。

1-G-10-2 は、手賀沼流域の住民の河川価値選考に合致した排水処理整備施策を、水質・水量、消費エネルギー等を考慮に入れたコンジョイント分析により提案したものである。住民が期待する水辺周辺環境整備は反映されていないものの、全域を下水道とし、その一部を分散下水道とするシナリオが経済的に最も有効であった。

（岩手県立大学・総合政策 山田 一裕）